海と社が織りなす美しいまち塩竈

塩竈市景観計画

塩竈市景観計画

はじめに

私たちのまち塩竈は、奈良時代から千三百年の歴史を誇り、歌枕の地「千賀の浦」の風光明媚さと、奥州一宮「鹽竈神社」の荘厳な景観に包まれながら、今日の風土を形成してまいりました。

「景観十年、風景百年、風土千年」と言われるように、先人が大変な努力を重ね築き上げてこられた港町や門前町のたたずまいは、私たちの誇りであり、これからも将来に向けて守り育てていかねばならないと考えております。

本市では、国の景観法の施行に先立ち、平成５年に「塩竈の景観を守り育てる条例」を施行し、景観に配慮したまちづくりを展開してまいりました。

これらの取り組みを礎としながら、脈々と継承されてきた景観資源を未来につなぐことが求められる一方、東日本大震災からの復興に向けた魅力的なまちづくりを進めていくために、新たな景観を創出していくことも必要です。

この「塩竈市景観計画」は、将来に向けた景観まちづくりの方向性を示すものであり、目指す都市景観像である「海と社が織りなす美しいまち塩竈」を実現するため、市民・事業者の皆様と協働して取り組んでいく決意を新たにしております。

景観は、市民の皆様の財産であり、良好な景観形成を進めていくためには、皆様とビジョンを共有し、共に力を尽くしていかなければなりません。

皆様方のより一層のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

最後に、計画策定にあたりまして、多くの貴重なご意見、ご提言を賜りました「塩竈市海と社の景観審議会」と「塩竈市まちづくり懇談会」の委員の皆様をはじめ、アンケート調査や景観シンポジウムなどにご協力いただきました皆様方に、心から厚く御礼申し上げます。

平成 28 年 4 月

塩竈市長　佐 藤　 昭

目　次

序　章　計画策定の背景

1　景観計画策定の背景　1

第１章　計画の目的・位置付け

1　計画策定の目的　5
2　計画の位置付け　6
3　計画の策定体制　7
4　計画の見直し　7
5　計画の推進　7

第２章　景観に関する現況特性

1　自然景観要素　9
2　歴史・文化景観要素　14
3　都市景観要素　18

第３章　景観に関する課題

1　景観に関するこれまでの取り組み　23
2　景観に関する市民意見　25
3　上位・関連計画　27
4　景観形成の課題　28

第４章　景観計画の区域

1　景観計画区域の設定　33

第５章　良好な景観の形成に関する方針

1　目指す都市景観　37
2　景観形成の理念　37
3　本計画における基本姿勢　38
4　景観形成の目標　39
5　景観形成の基本方針　41
　基本方針１　守る　41
　基本方針２　つなぐ　44
　基本方針３　創る　47

第６章　景観形成地区に関する方針

1　景観形成地区の設定　53
2　景観形成地区の基本方針　55
（1）海と社を結ぶ地区　55
（2）浦戸・杉ノ入裏地区　60
（3）田園文化村地区　63
（4）野田の玉川・新駅周辺地区　66
（5）籬島地区　69
（6）貞山運河周辺地区　71

第７章　行為の制限に関する事項

1　行為の制限　75
2　届出対象行為　75
3　景観形成基準　76

第８章　景観重要建造物及び景観重要樹木の指定の方針

1　基本的な考え方　81
2　景観重要建造物の指定の方針　81
3　景観重要樹木の指定の方針　85

第９章　景観重要公共施設の整備に関する事項

1　基本的な考え方　89
2　景観重要公共施設の指定の方針　89
3　整備に関する考え方　89
4　占用等の許可の基準　91

第 10 章　景観形成の推進方策

1　市民と行政との協働による景観形成　99
2　景観形成の推進方策　99
3　推進体制の整備　103

付属資料　104

表紙絵　塩竈市海と杜の景観審議会　宮城大学事業構想学部教授　風 見 正 三

序　章
計画策定の背景

1　景観計画策定の背景

観光のしおがま写真コンクール「塩竈ざくら」

序　章　計画策定の背景

1　景観計画策定の背景

海と島々が織り成す風光明媚な松島湾の一翼を担う本市は、奈良時代に国府多賀城の津として開かれ、都人の往来とともに早くから景勝地として知れ渡りました。平安初期には、河原左大臣源 融（みなもとのとおる）が、塩竈の景色を模した大庭園「河原院」を京都六条鴨川の辺り（現下京区本塩竈町付近）に造り栄華風流を極めたことから、都人あこがれの“歌枕の地”として数多くの歌に詠まれました。

また、古代から奥州一宮 鹽竈神社の門前町でもある本市は、江戸時代、藩の保護のもと花街が黙認され、仙台城下の荷揚げ港として特権が与えられたことから、風情と活気のある独特の街並みが形成され、今も往事を偲ぶ歴史的建造物や他の地域にはない貴重な景観資源が残されています。

さらに、明治時代から昭和40年代半ばまで継続された近代港湾整備により、東北でも有数の港湾都市へと発展し、大きな倉庫や林立するクレーンが独特のみなとまちらしさを演出しています。

また、高度経済成長期に、全国有数の漁港、水産加工のまちとなり、伝統を誇る地酒や菓子、寿司とともに「食のまち」として“美味しさ”の心象風景をみせてくれます。

塩竈みなと祭
御座船 鳳凰丸
昭和 23 年開祭当初

現在

都市の成熟とともに、バブル経済であった平成初期、鹽竈神社から千賀の浦の眺望を遮るマンション建設や、門前町を縦断する北浜沢乙線事業などに対して市民の関心が高まり、平成５年に「塩竈の景観を守り育てる条例」が制定され、景観に配慮した道路整備や街並みの景観誘導などの取り組みが行われました。

近年、都市を取り巻く状況を見ると、質の高い都市空間を形成することと、都市の発展に向けて定住や交流の促進が重要な要素であり、それらに取り組む上でも魅力的な景観形成が求められています。

このため、本市は平成23年４月に景観法に基づく景観行政団体に移行しました。

塩竈らしい景観形成を図るための方針や基準を定め、将来にわたり景観形成の取り組みを推進するために、塩竈市景観計画を策定します。

ひと休み

みなもとの
源　ねりかま

景観コラムは、市民の皆さんに景観への関心を持っていただき、景観計画を策定し、推進していくことを広く周知するために、市の広報紙（平成27年５月号～平成28年３月号）に連載したものです。
序章、３章～６章、８章の最後のページに掲載しています。
※写真等はカラーに差し替えております。また、問合せ先や内容につきましては、掲載当時のものとなりますのでご了承ください。

景観コラム『景観十年、風景百年、風土千年』

都市景観の原点「国府津千軒」

本市の都市景観の原点は、西暦724年（奈良時代）、国府多賀城の設置に伴い、南町（白坂）から塩釜高校西キャンパスまでの丘陵に国府津千軒という国府の港まちが開かれたことに始まります。後に転訛（てんか）して香津千軒と呼ばれるようになりますが、現在の香津町は一部区域が異なるものの、往事をしのび大正5年に命名されたものです。また、塩釜高校西キャンパスの辺りは、鳥居原と呼ばれる古代の市場跡と言われ、重要特産物の塩を中心に都からの舶来品や海・農産物の取引が行われていたと考えられています。今では幼稚園や小学校、高校の集まる文教空間となっていますが、学びの地としてふさわしい雰囲気が漂うのは、1,000年以上の歴史に培われてきたからかもしれません。そして、奈良時代の都人の服装は挿絵のような中国風！そんな人々も往来していたのではないかと想像してみると、今まで考えたこともない新たな塩竈が見えてきませんか？

【参考文献：塩竈市史別篇Ⅰ】

※2ページで紹介したように、本市は現在、景観計画を策定中です。市民の皆さんにも景観に関心を持ってもらえるよう、来年3月号まで11回のシリーズで塩竈の景観を紹介します。

問 都市計画課まちづくり推進係
☎364-2510

広報しおがま平成 27 年５月号掲載

写真説明

シオンちゃん

観光のしおがま写真館

塩竈の風物を紹介するため、塩竈市観光物産協会の協力で「観光のしおがま写真コンクール」の入選作品を各章の扉、各ページの右上に「題名」入りで掲載しました。

「花まつり」
（４月第４日曜日開催）

塩竈タイムトラベル写真館

明治から平成まで、塩竈の時代の変化による風景の移ろいを、各章の２ページ目の右上に掲載しました。

塩竈みなと祭
御座船 鳳凰丸
昭和 23 年開祭当初

現在

塩竈震災復旧・復興写真館

塩竈の震災からの復旧・復興状況を１～３章、５～６章、８～ 10 章の最後から２ページ目の右上に掲載しました。

藤倉児童館
（震災直後）

現在